



小澤さん

森回さん

土居さん

西崎さん

御荘文化センターで町内外から約400名が参加して「愛南町人権ふおーらむ」が開催されました。当日は、コーディネーターに森口健司さんを迎え、パネリストとして愛南町出身で現在、大阪教育大学4回生の小澤有輝さんと、以前、南宇和高校で教鞭をとり解放未来塾の活動に関わった愛媛県立吉田高校教諭の西崎嘉仁さん、愛媛県立松山中央高校教諭の土居俊一さんの3名が問題提起を行ったほか、全体討議では、参加者から次々と差別に対する素直な思いや自らの体験が語られました。

■問題提起（要約）

小澤有輝さん

高校1年の時の人権学習で、クラスの間を信じ、誰にも言えない悩みを自分の言葉で必死に語り合った経験が、人権教育に真剣に取り組むきっかけとなった。また、大学のサークルで当事者も含め毎日人権について語り合うことで、自分自身の差別性に気付くことができた。

小・中学校・高校までいじめにあってきた経験から、差別の理不尽さ等を痛切に感じていた。そのため差別をなくすための運動が輝いて見えた。しかし、同級生からの差別的な発言に対して何もできなかった歯がゆさも感じてきた。そんな時サークルの仲間を支えられながら差別と向き合ってきた。そんな仲間とは一生涯を通してのつながりがある仲間となっている。

西崎嘉仁さん

教師としてのスタートを切った南宇和高校で人権教育に出会い、差別をなくそうとしている仲間助けられながら活動することができた。クラス生徒に自分自身をさらけ出すことで生徒と同じ目線になり、初めて心がつながりあえる。

また、自分自身のルーツである親を見つめ直すことが大切。皆一人ひとりで、大きな荷物を背負っていて、一人では背負いきれないような時もある。けれど、そんなとき互いに自分を語り、相手の言葉に耳を傾けることで、少しだけその荷物を分け持つことができる。こうした人間関係をひとつずつ作り上げていくことが重要。

土居俊一さん

二年前完成した解放未来塾の歌「私たちの合言葉」の間奏部分のフルートとホルンのパートは、吹奏楽部の仲間と自分自身をさらけ出し立場宣言をした同和地区出身の二人の生徒のパートでした。仲間には多少の驚きはあったよつでしたが、その時の話し合いの場がもてたことで仲間の絆が強くなった。

人の気持ちというのは、人の行動を変えることができる。人はたくさん人の気持ちに力をもらっている。今の場が、ふかふかのベッドにタイプするような居心地のよい場所になっている。人と人がつながりあえるための「語り合いの場」は、このような雰囲気

気の場ではないかと思う。

大会の感想から 17歳女性町内

私は、昨日の講演会と今日の人権ふおーらむに参加しました。「差別をなくす」「差別はだめだ」などと言うのは簡単です。だけれど言うだけにしたいくない。と思ったので極度のあがり症なのですが、意見を言わせていただき嬉しかったです。上手くいえなかったけれど、かっこいいことはいえなかったけれど、発言できて良かったです。

差別はなくなりません。絶対になくなりません。私は多くの人にそれを伝えたいです。自分ができることはたくさんあります。きつと周りの仲間にも、苦しんでいる人がいます。これまで、たくさんの人たちに、何度も助けられてきました。だからそれ以上にたくさんの人を助けたい。私の一言で、行動で、誰かの救いになります。だから今は周りの人たちを大切にしたいです。親・クラスの皆・愛南町の方々・大好きな吹奏楽部の仲間。愛南町は温かいです。けど「愛南町がふかふかのベッド」なら、南校吹奏楽部は、「最高級のふかふかのベッド」です。また来年も来たいです。